

令和5年度 ふれあいバスに関するアンケート調査 報告

1 アンケート調査の目的

平成12年に誕生し、地域の方々の通勤、通学、通院などの移動手段の1つとして利用されている「高岡ふれあいバス」について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活様式の変化など、ふれあいバスの利用実態が変化してきていることも踏まえ、ふれあいバスに対する地域ニーズの把握及び利便性向上・利用促進を図るため、ふれあいバスの利用に関するアンケート調査を実施しました。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査期間

令和5年8月1日（火）から令和5年8月31日（木）まで

(2) 調査対象者

前林地域11自治区の全世帯（企業等の寮を除き5,933世帯）

※前林地域の各家庭に3部ずつ配布（幅広い世代の3人の方に記入を依頼）

(3) 配布・回収状況等

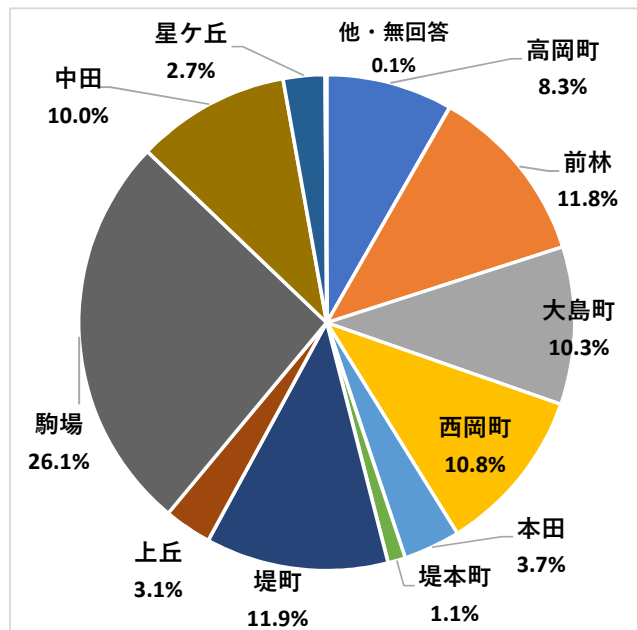
- | | |
|-----------|---------|
| ① 配布部数 | 17,799部 |
| ② 回収部数 | 8,616部 |
| ③ 回収率 | 48.4% |
| ④ 配布・回数方法 | 各自治区に依頼 |

- 前林地域11自治区の全世帯（企業等の寮は除く5,933世帯）に各3部ずつ配布。
- 配布数17,799部、回収数8,616部で、回収率は48.4%であった。

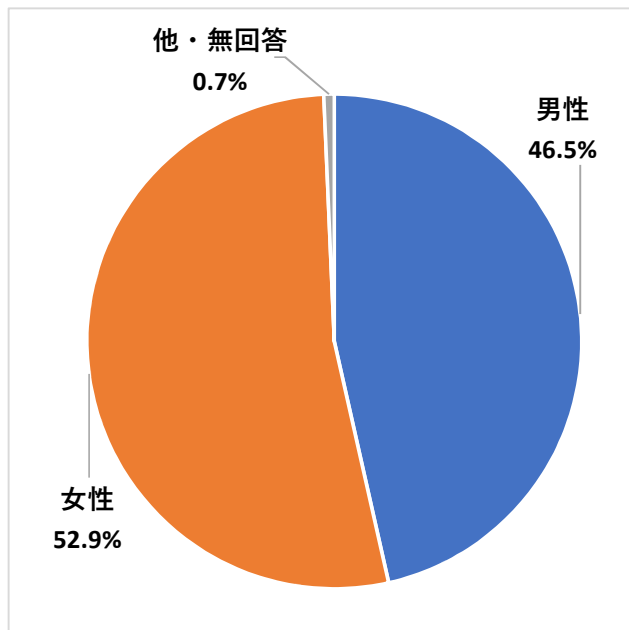
3 アンケート調査の集計分析結果

(1)ご自身についてお尋ねします。

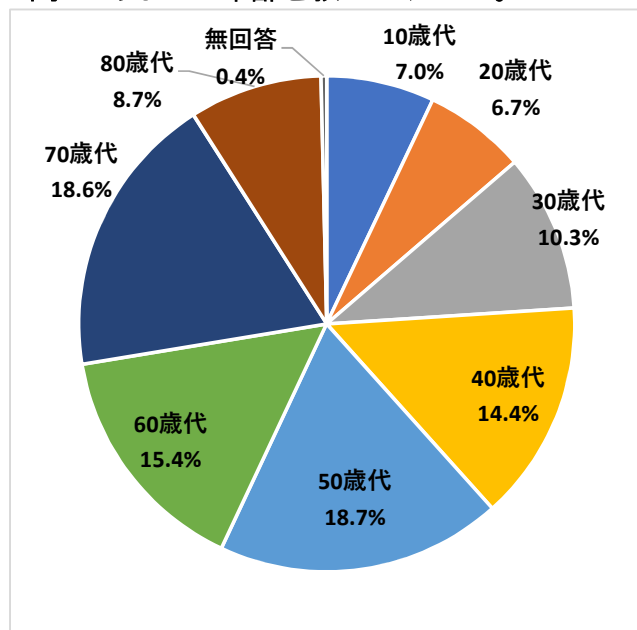
問1 あなたのお住まいの自治区を教えてください。



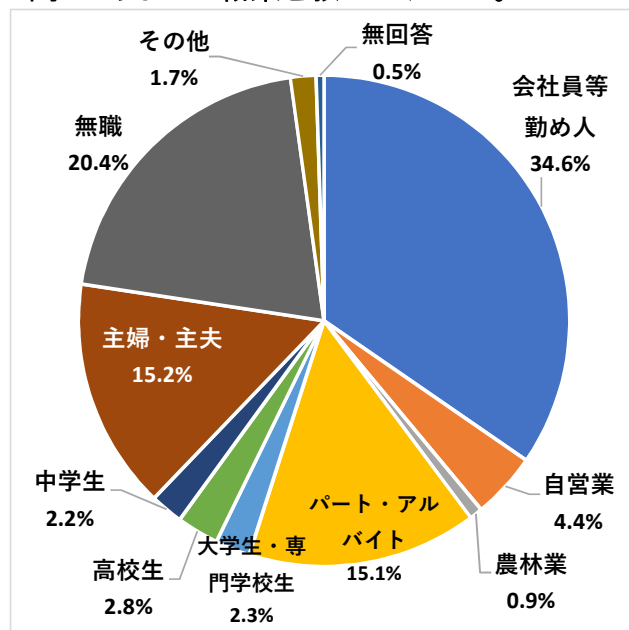
問2 あなたの性別を教えてください。



問3 あなたの年齢を教えてください。



問4 あなたの職業を教えてください。

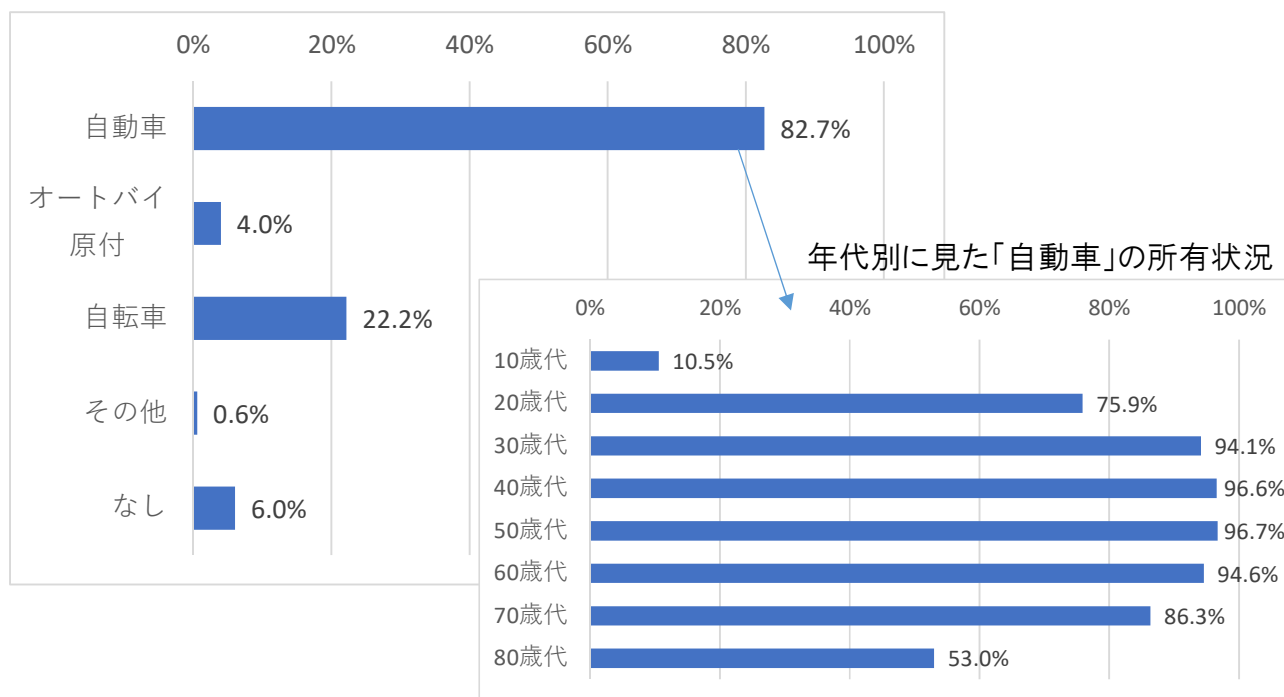


- 居住自治区は駒場が最も多く26.1%(2,248人)、堤本町が最少で1.1%(98人)である。
- 性別では女性が52.9%と、男性を上回っている。
- 年齢は70歳代が最も多く18.6%(1,601人)で、60歳未満が全体の約57%を占めるが、60歳以上も約43%を占めており、幅広い年齢層が回答している。
- 会社員等勤め人やパート・アルバイトなどの就業者が55%程度を占め、主婦(主夫)・無職層が約36%を占めている。

(2) 日常的な移動手段についてお尋ねします。

問5 あなたが所有している乗り物または専用で使える乗り物を教えてください。

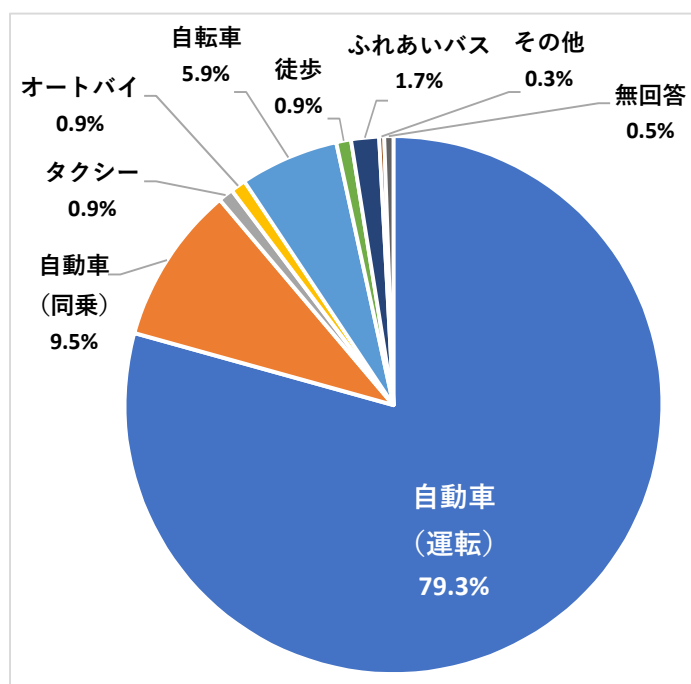
回答者数:8,616 (複数回答)



- 約 83%の人が自動車を所有(または専用で使える自動車がある)している。
- 30 歳代から 60 歳代では、95%程度の人が自動車を所有(または専用で使える自動車がある)している。

問6 あなたが移動する際に主に利用する移動手段を教えてください。

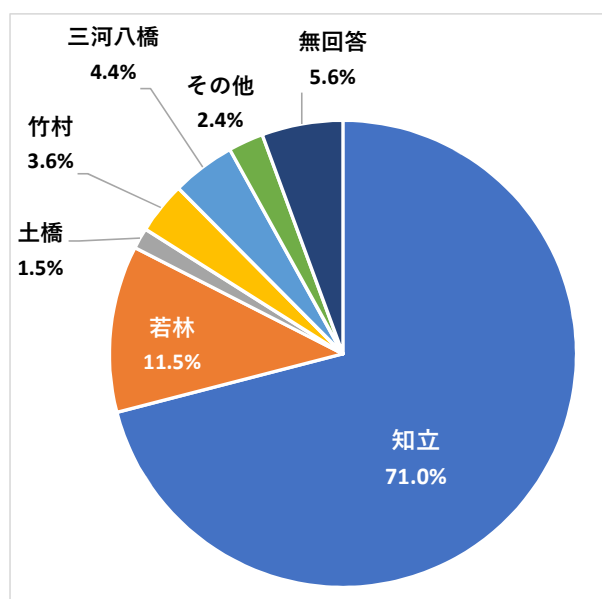
回答者数:8,616



- 移動の際の主な手段としては、自動車を自分で運転する人が 79.3%、同乗(家族の送迎)が 9.5%となっており、自動車依存の交通体系がうかがえる。
- ふれあいバスは 1.7%(144 人)であった。

問7 電車を利用される際に主に利用する駅はどこですか。

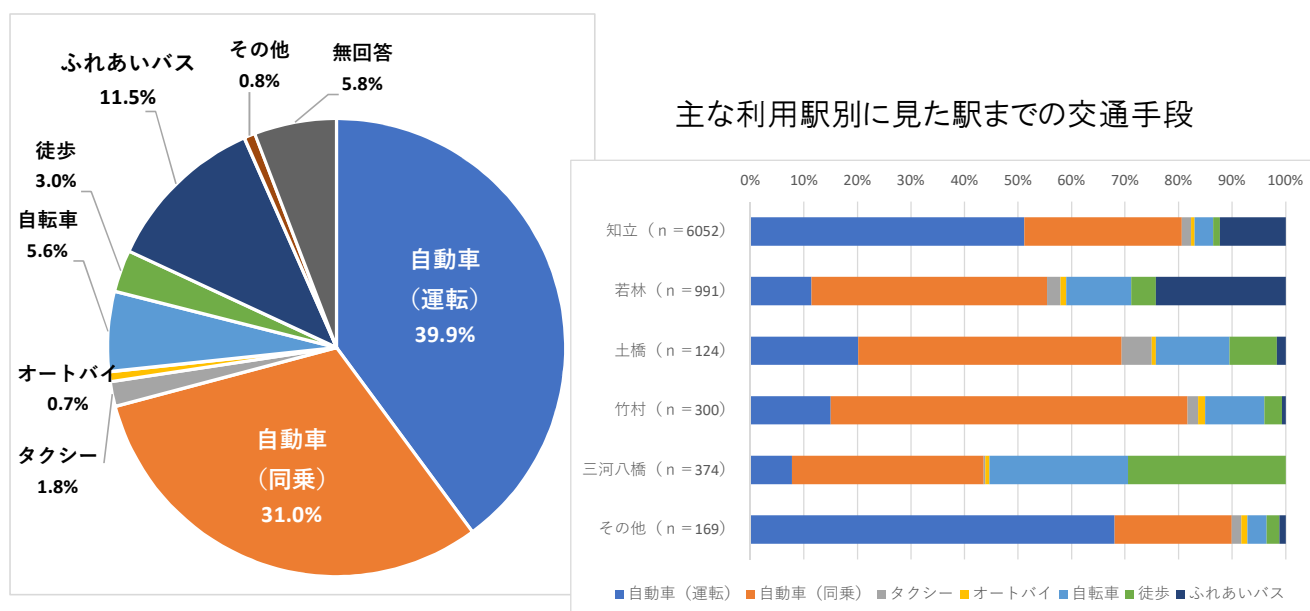
回答者数:8,616



- 知立駅が最も多く、71%(6,114 人)であり、次いで若林駅が 11.5%(995 人)であった。

問8 (問7)で○印を付けた“利用する駅”までの移動手段を教えてください。

回答者数:8,616

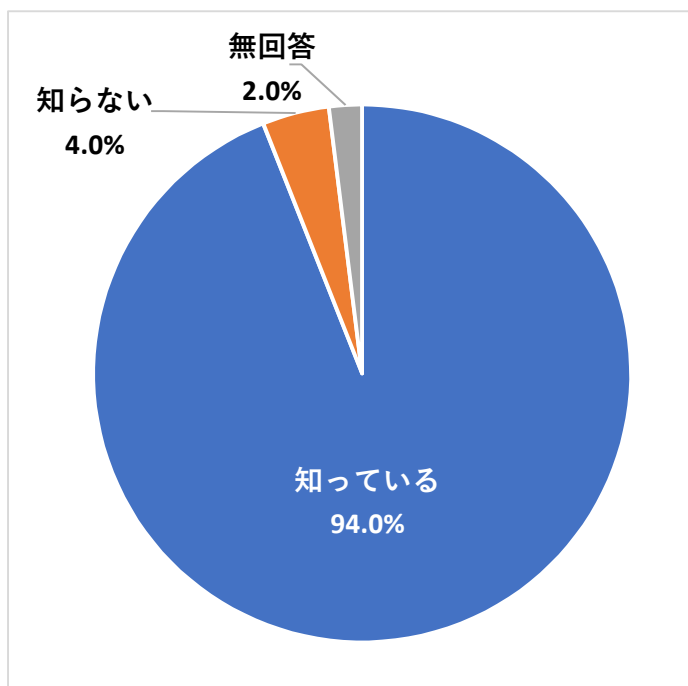


- 自動車の利用が約 70%となっているが、普段の移動の際の交通手段構成(問 6)と比較して、駅への自動車移動は同乗(家族の送迎)の割合が高くなっている。
- 若林駅と知立駅は、ふれあいバスの利用が一定量見られる。

(3)ふれあいバス(高岡地域バス)についてお尋ねします。

問9 あなたは、ふれあいバスを知っていますか。

回答者数:8,616



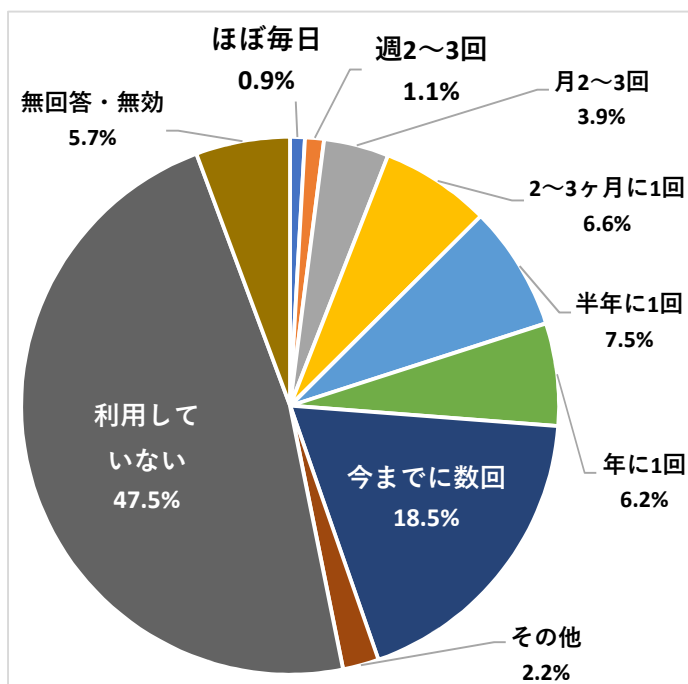
- ふれあいバスの認知度は高く、94% (8,099 人)となっている。

問 10 ふれあいバスを利用したことがありますか。

問 11 ふれあいバスの利用頻度を教えてください。(問 10 で「ある」と回答した人への質問)

回答者数:8,616

※問 10 で「ない」と回答した人を「利用していない」として問 11 とあわせて集計しグラフ化した。

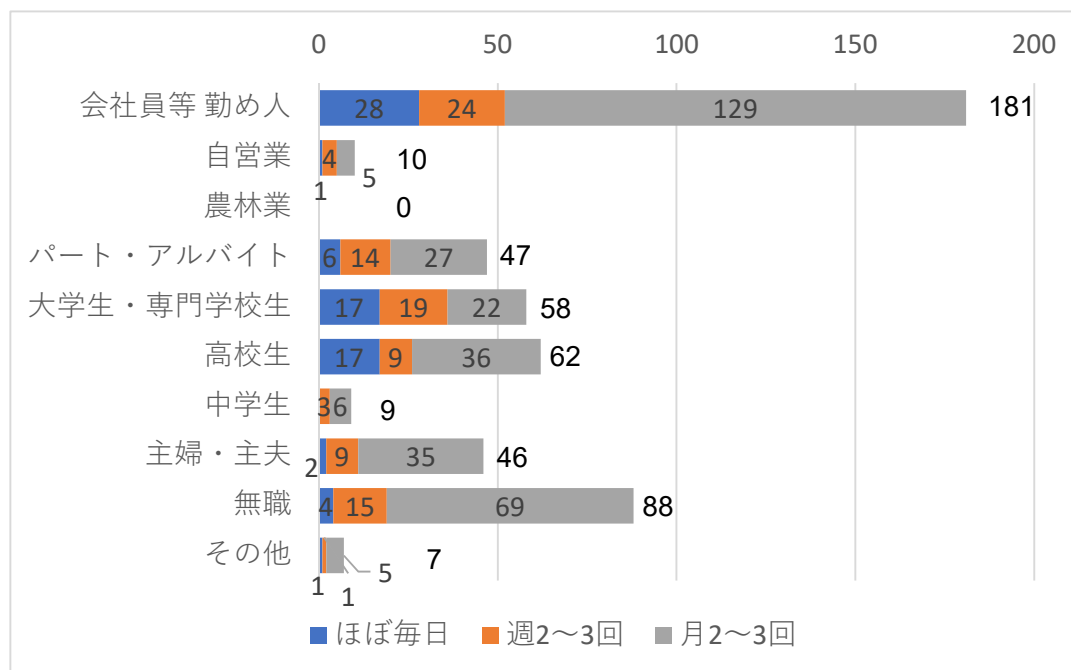


- 利用していないという人(問 10 で「ない」と回答)は、47.5%(4,093 人)であった。
- ほぼ毎日利用している人は 0.9%(76 人)存在する。「週2～3回」「月2～3回」と回答した人を含めると、定期的に利用している人(日常的利用者)は 5.9%(511 人)となる。

問 11 で「ほぼ毎日」「週2～3回程度」「月2～3回程度」と回答した人(511 人)を「日常的利用者」と定義し、以下の問 12～16 では日常的利用者の回答を集計する。

職業別に見た「日常的利用者」の利用頻度

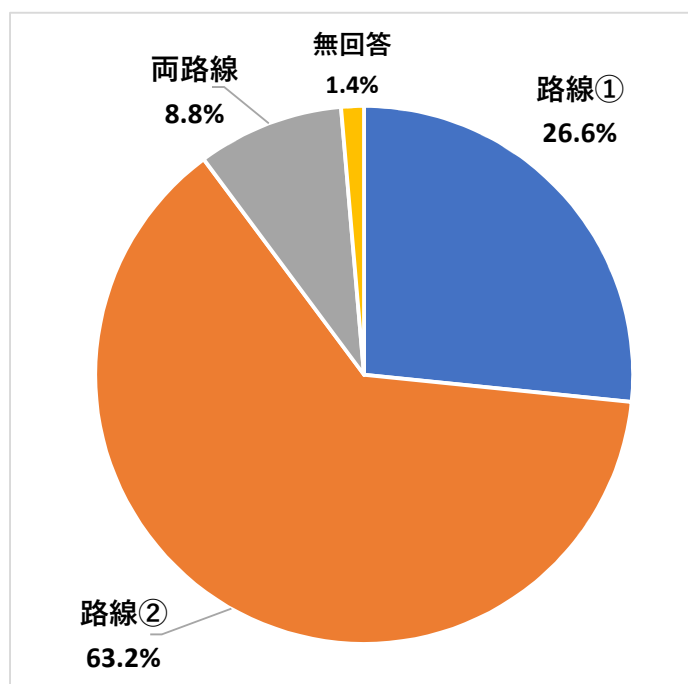
回答者数:511



- 日常的利用者は、会社員などの勤め人が最も多く、次いで無職となっている。
- 勤め人の利用頻度は「月2～3回」が最も多く、毎日の通勤で利用しているとは限らないことがうかがえる。

問 12 どの路線を利用していますか。(問 10 で「ある」と回答した人への質問)

回答者数:511



- 路線②を利用する日常的利用者が最も多く、63.2%(323 人)を占めている。
- 両路線とも利用する人は、8.8%(45 人)存在する。

(問 10 で「ある」と回答した人への質問)

回答者数:511

乗るバス停を縦に、降りるバス停を横に並べた表(バス停間 OD 表)で回答数を整理した。

[illegible]

- 路線①の利用では、路線上の多くのバス停から若林駅(1-8, 1-36)までの乗車が多いものの、降車バス停では「知立駅」という回答も若干見られる。
- 路線②の利用では、ほとんどの回答者が「知立駅」を主な降車バス停と回答している。
- 乗車バス停では堤上町(1-3)、代官橋(2-6)、大島片平(2-12)、大島豊(2-13)、高岡公園(2-14)、中田町日進(2-17)という回答が多い。

路線図・バス停名一覧



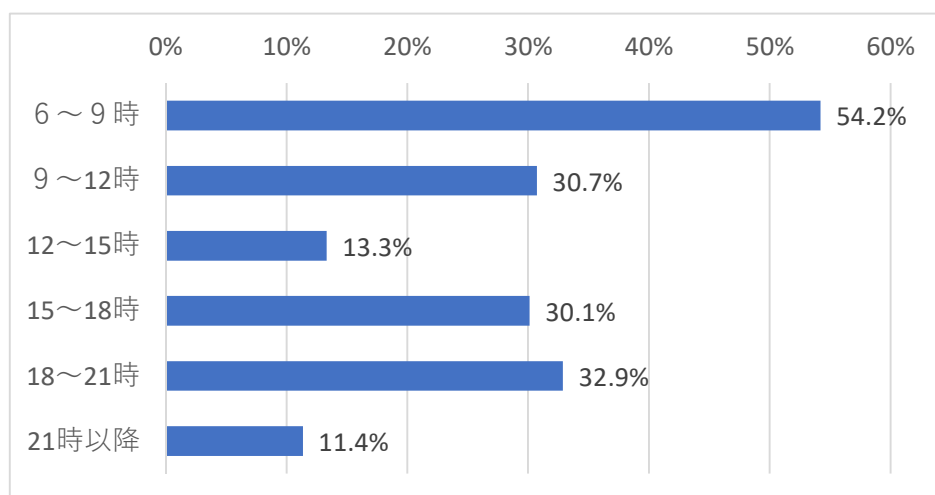
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
明知下公民館	堤本町	堤上町	JA町支店	高岡竹後	高岡町池端	Aコープ若林店	若林駅西	富士団地	井戸田歯科	高岡本町秋葉	高岡本町会館	高岡本町中	伊藤内科	高丘新町春日	高丘新町上平地	高岡公園	前林岡田	甲村クリニック	前林交流館	星川米穀店	前林西	JA堤下支店	西岡区民会館	阿知和池	星ヶ丘メゾン	西岡保ヶ山	西岡二本木	本田町	JA堤下支店	前林西	前林桜田	前林日伸	高岡コミセン	高岡商工会	若林駅西

路線①

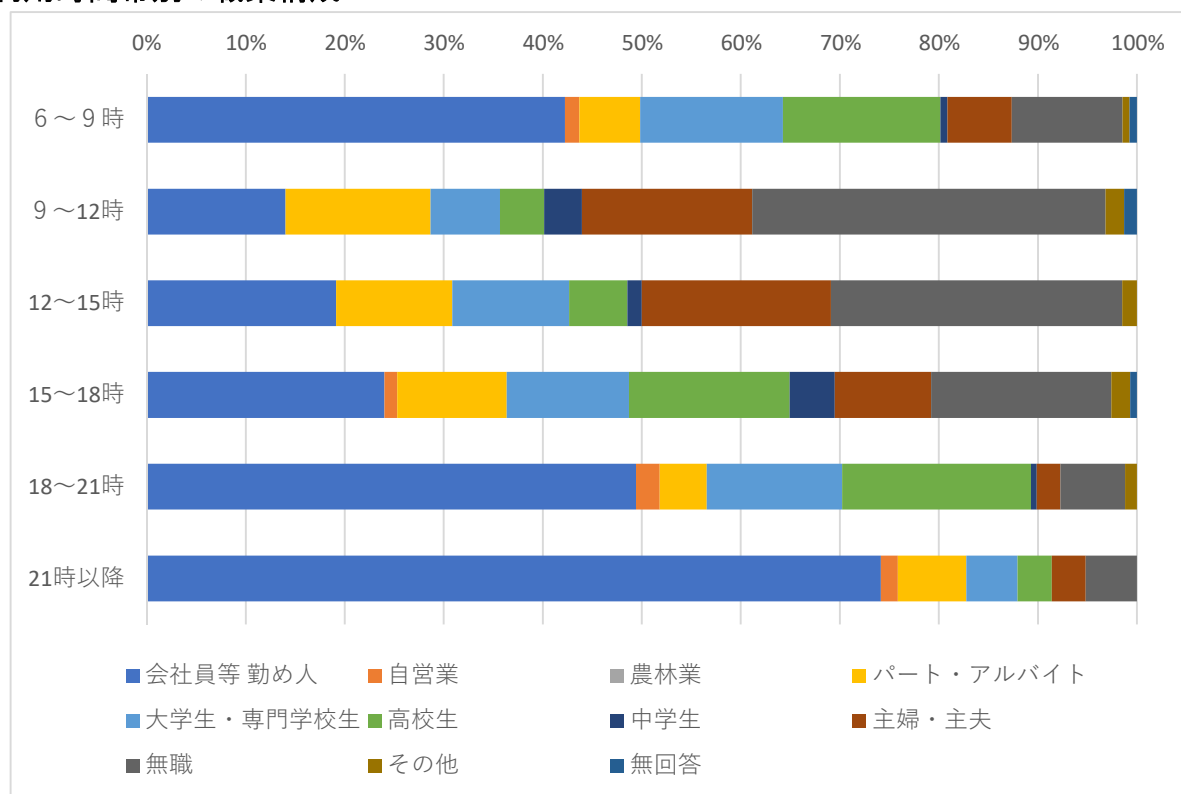
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
上丘町	堤町平松	堤上町	堤本町	本町町川端	代官橋	大島切畑	星ヶ丘メゾン	星ヶ丘アパート	星ヶ丘エバグリーン	ハイウェイオアシス東	大島片平	大島豊	高岡公園	中田口	中田	中田日進	駒新坂上	駒新中通	駒新金山	駒場郵便局前	駒場極楽寺	駒場東口	駒場金塚	駒場北口	駒場こども園	知立

路線②

問 14 ふれあいバスを利用する時間帯を教えてください。(問 10 で「ある」と回答した人への質問)
回答者数:511 (複数回答 2つまで)



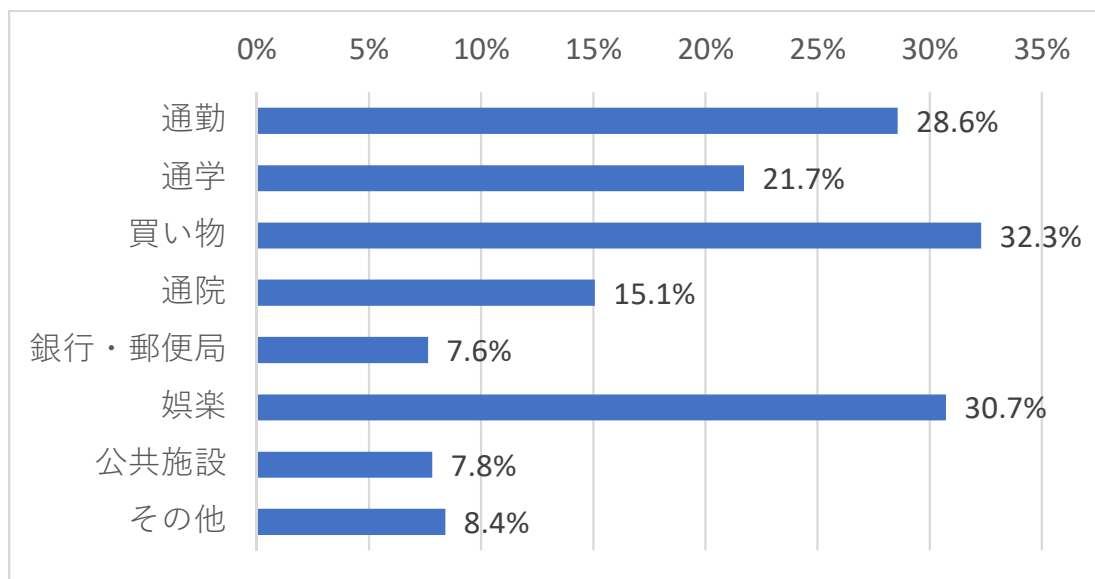
利用時間帯別の職業構成



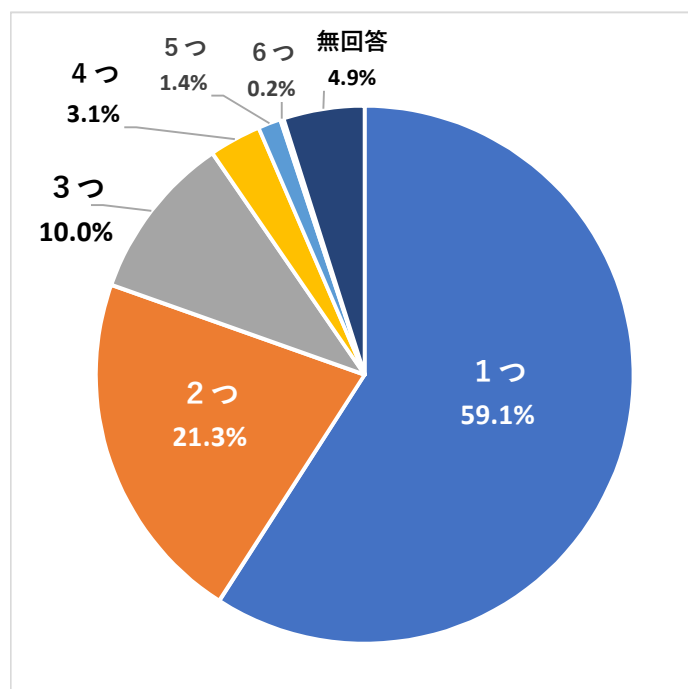
- 利用する時間帯は「6～9時」が最も多く、54.2%の人が回答している。
- 午後は午前と比べて利用時間帯は平準化しており、15～18 時が 30.1%、18～21 時が 32.9%であった。
- 時間帯別の職業構成を見ると、午前の早い時間帯および午後の遅い時間帯は会社員等の勤め人の割合が高く、昼間時は主婦・主婦・無職層の利用割合が高くなっている。

問 15 主にどのような目的でふれあいバスを利用していますか。また、具体的な地域名または施設名を教えてください。（問 10 で「ある」と回答した人への質問）

回答者数:511（複数回答）



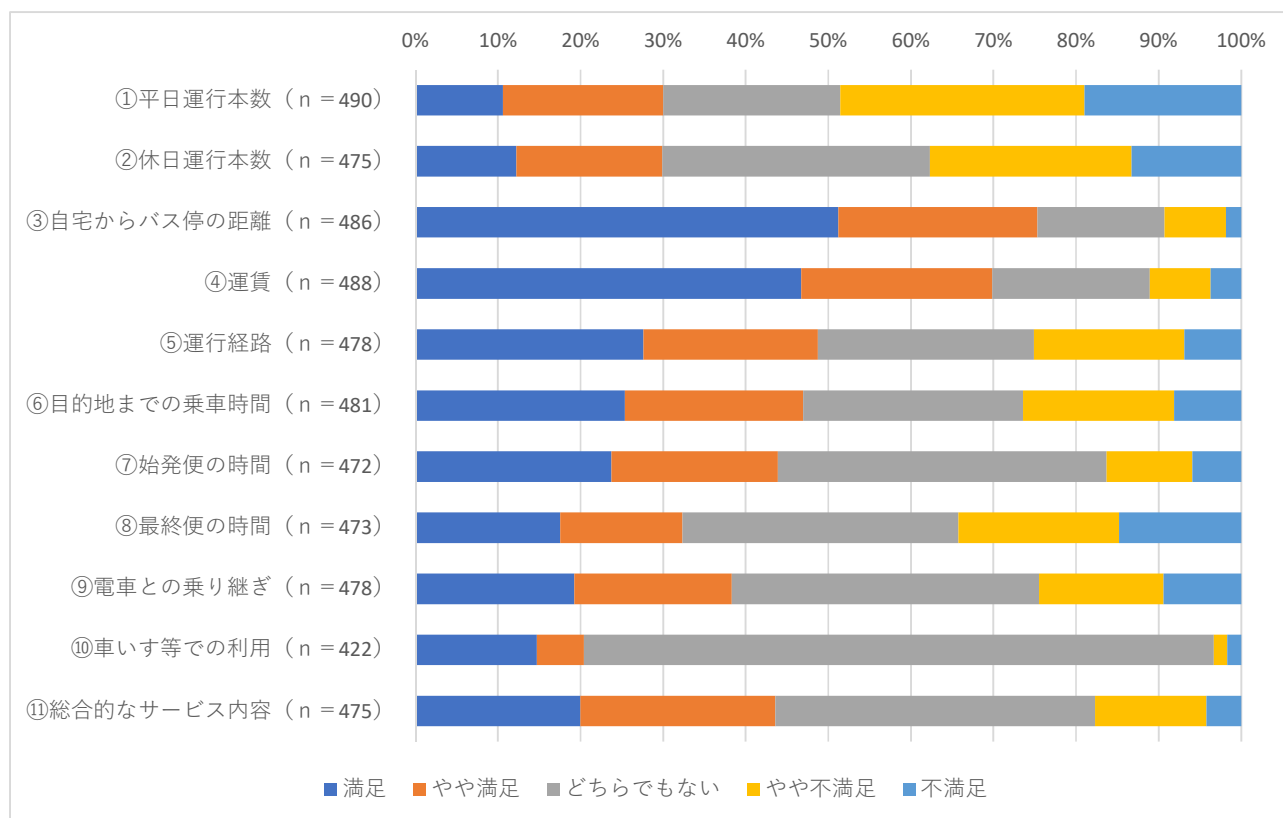
複数の目的での外出状況（回答した利用目的の数別構成）



- 利用目的は「買い物」が最も多く 32.3%(165 人)の人が回答している。
- 次いで多いのは、娯楽が 30.7%(157 人)、通勤が 28.6%(146 人)となっている。
- 約 36%の人が、複数の目的を回答しており、ふれあいバスでの外出時にさまざまな用事を済ませている行動形態がうかがえる。

問 16 ふれあいバスのご利用にあたり、あなたの考えに最もあてはまる数字に1つに○印をつけ、具体的な理由があればご記入ください。(問 10 で「ある」と回答した人への質問)

回答者数:511(①～⑪それぞれ 5 段階で回答)



評価項目	満足度 得点
①平日運行本数(n=490)	-0.27
②休日運行本数(n=475)	-0.09
③自宅からバス停の距離(n=486)	1.15
④運賃(n=488)	1.02
⑤運行経路(n=478)	0.44
⑥目的地までの乗車時間(n=481)	0.38
⑦始発便の時間(n=472)	0.45
⑧最終便の時間(n=473)	0.01
⑨電車との乗り継ぎ(n=478)	0.24
⑩車いす等での利用(n=422)	0.30
⑪総合的なサービス内容(n=475)	0.42

「満足」+2点、「やや満足」+1点
「どちらでもない」0点
「やや不満足」-1点、「不満足」-2点
として回答数に掛けて足し合わせ、回答者数で割った値を「満足度 得点」とした。

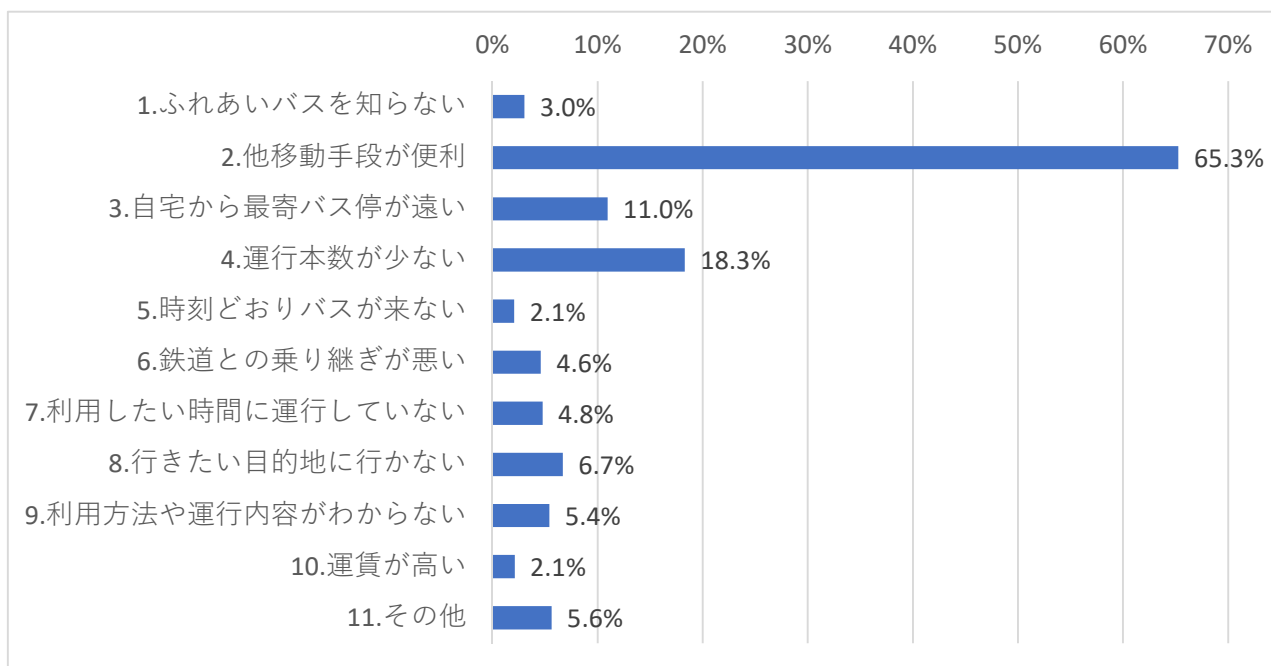
正の値であれば、満足が不満足に勝っており、ゼロなら満足と不満足が均衡し、負の値なら不満足が満足に勝っている項目となる。

- 自宅からバス停までの距離や運賃の満足度が比較的高くなっている。日常的利用者にとっては、これらの評価項目に満足できているから日常的に利用しているとも考えられる。
- 運行本数は得点が負の値となっており、不満足項目であるものの、他都市を含めて多くのコミュニティバスでは同様の傾向が見られる。

問 10 で「ない」と回答した 4,093 人と、「ある」と回答した人のうち問 11 で「2～3ヶ月に1回」以下の回答をした 3,338 人の合計 7,431 人を「日常的に利用していない人」と定義し、これらの回答者を対象に以下の問 17, 問 18 を集計する。

問 17 ふれあいバスを利用していない理由を、次の中から選んで○印をつけ、具体的な理由があればご記入ください。

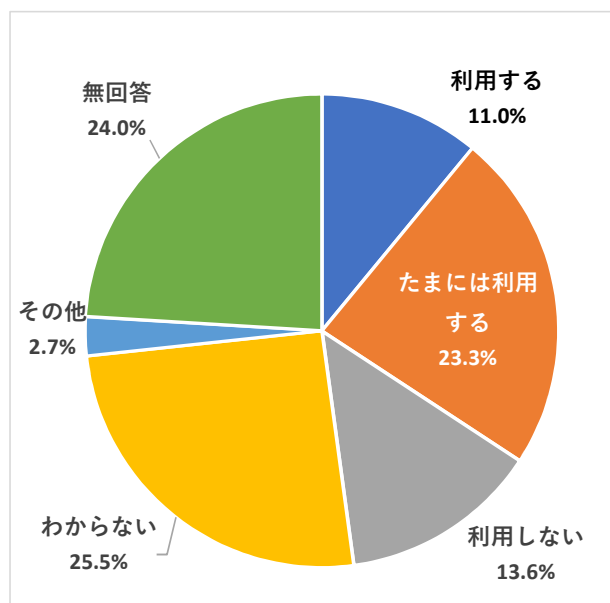
回答者数:7,431（複数回答 3つまで）



- 日常的に利用していない人の理由は「他移動手段が便利」という回答割合が著しく高くなっている。普段の移動手段とあわせて考えると、自動車が利用できる層にとって、ふれあいバスを利用する必要がないことがうかがえる。

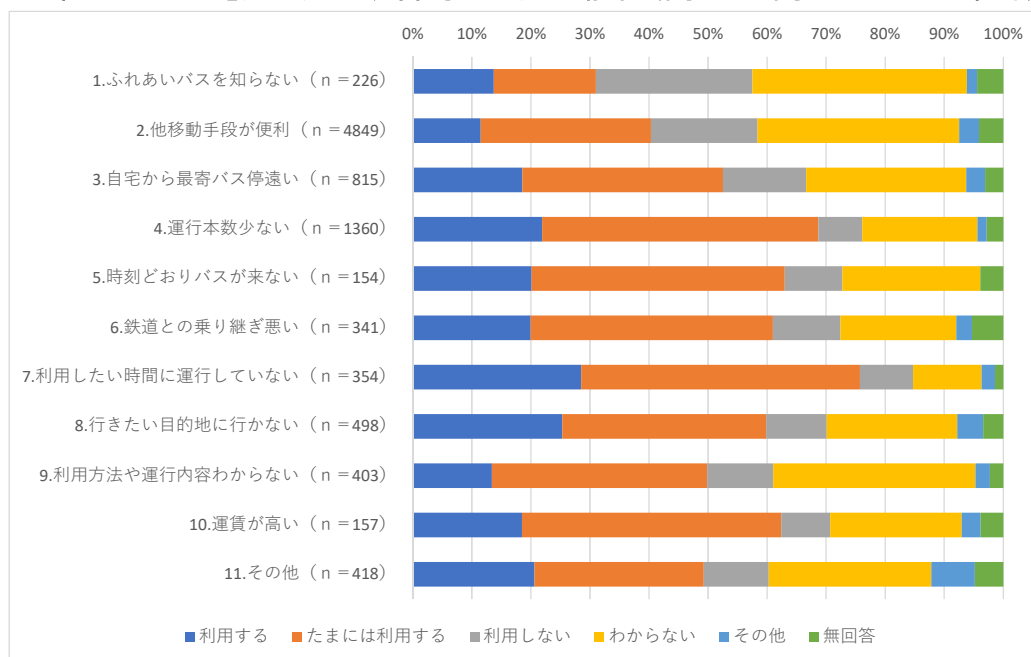
問 18（問17）で選んだ“利用していない理由”が改善された場合、あなたは、ふれあいバスを利用されますか。

回答者数:7,431



- 乗らない理由の改善によって「利用する」と回答した人は 11%(816 人)であった。「たまには利用する」を含めると、約 35%(2,545 人)となる。

回答した「乗らない理由」別に見た改善時の利用可能性(問 17 と問 18 のクロス集計)

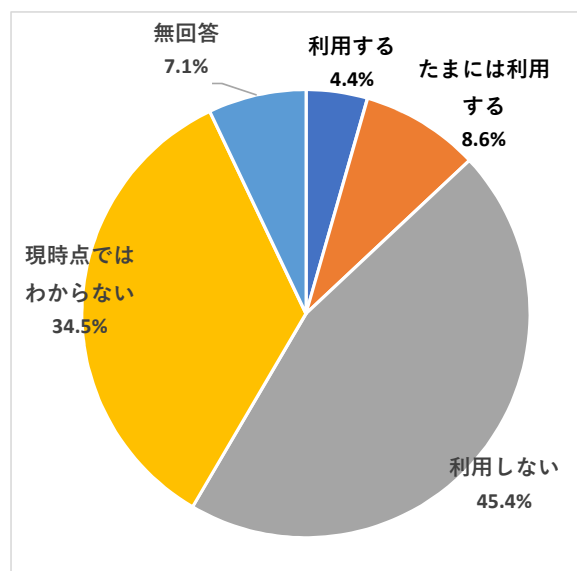


- 理由別に見ると「利用したい時間に運行していない」「運行本数が少ない」などの改善が、比較的「利用する」「たまには利用する」という回答が多くなっている。

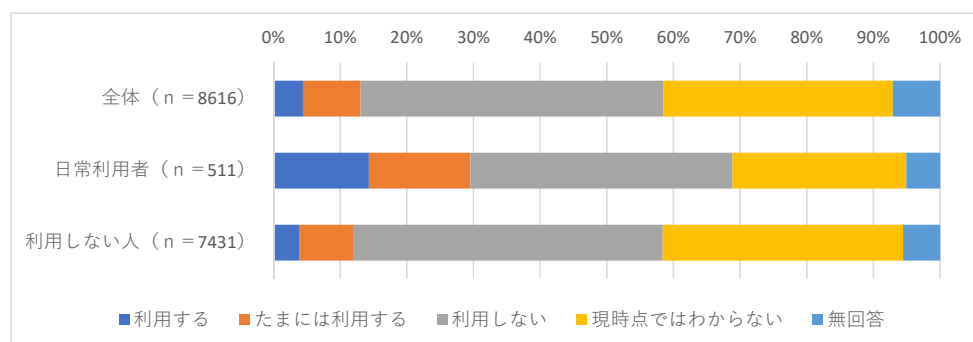
現在、ふれあいバスの走行経路について、土橋駅への乗入れを検討しています。

問 19 土橋駅へ乗入れた場合、あなたは土橋駅方面への移動にふれあいバスを利用しますか。

回答者数:8,616



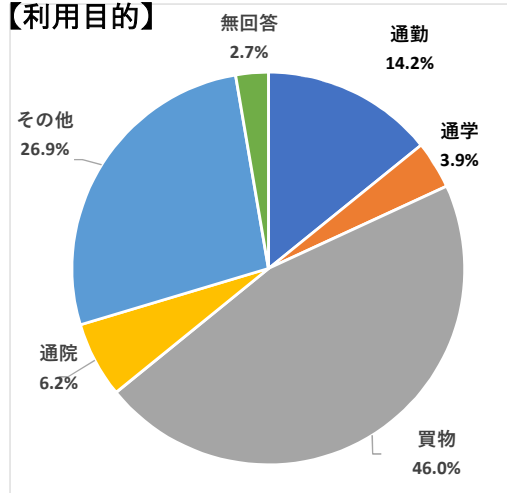
- 土橋駅への乗入れによる利用意向は「利用する」が 4.4%(382 人)、「たまには利用する」が 8.6%(739 人)であった。
- 「利用しない」が最も多く、45.4%(3,915 人)であった。
- 日常的利用者は「利用する」「たまには利用する」という回答割合が比較的高く、普段からふれあいバスを使っている人にとって、外出先の選択肢が増えることで、利用頻度が高まることが期待される。



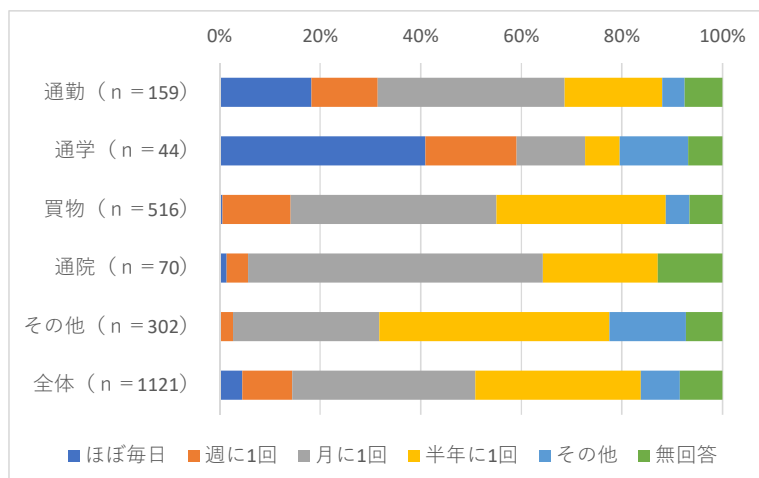
問 20（問 19 で 1.利用する 2.たまに利用すると回答した方へ）利用目的と頻度を教えてください。

回答者数:1,121

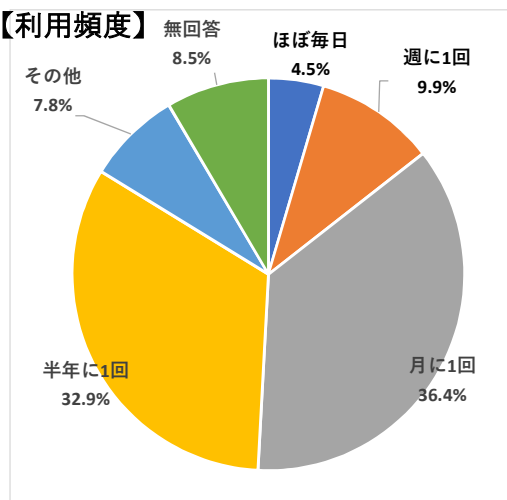
【利用目的】



【利用目的と頻度のクロス集計】



【利用頻度】

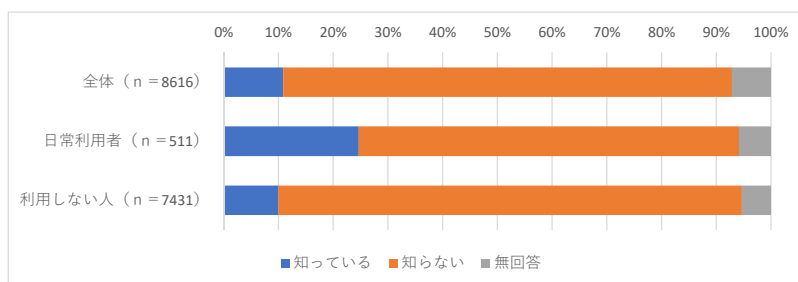
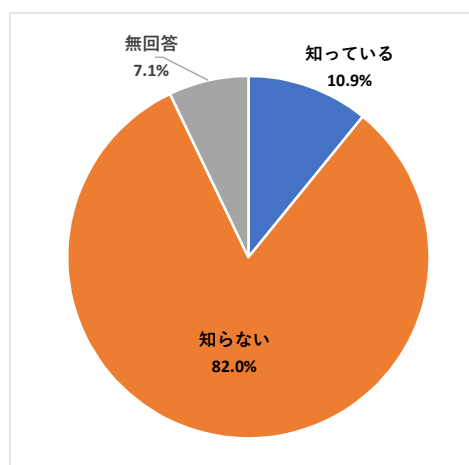


- 土橋乗入れ時に「利用する」「たまには利用する」という人の目的は「買物」が最も多く 46%(516 人)である。
- 頻度は「ほぼ毎日」が 4.5%(51 人)、「週に 1 回」が 9.9%(111 人)となっている。
- 利用目的と頻度をクロス集計すると、通勤や通学目的でも「週に 1 回」「月に 1 回」以下の回答が多数見られ、何か特殊な事情(例えば降雨時や飲酒時など)があった場合の交通手段としてのニーズがうかがえる。

ふれあいバス運営協議会では、高齢者及び運転免許返納者に対する利用促進策として令和4年度に専用回数券の購入費補助事業を実施しています。

問 21 あなたは高齢者及び運転免許返納者に対する専用回数券を知っていますか。

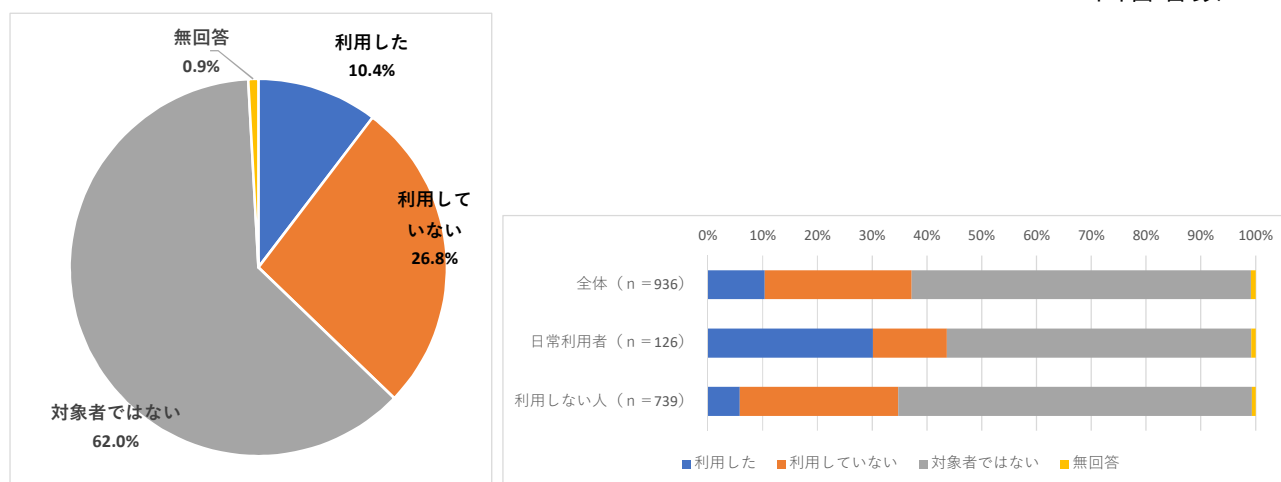
回答者数:8,616



- 高齢者・免許返納者 専用回数券購入補助事業を「知っている」人は 10.9%(936 人)にとどまっており、高い認知度とは言えない。
- 日常的利用者の認知度は、比較的高くなっている。

問 22 (問 21 で 1.知っている。と回答した方へ)あなたは専用回数券を利用しましたか。

回答者数:936

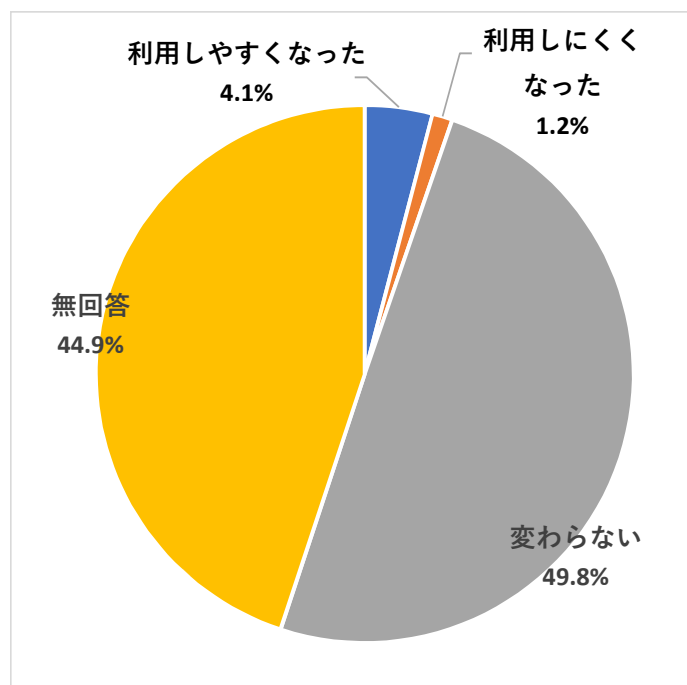


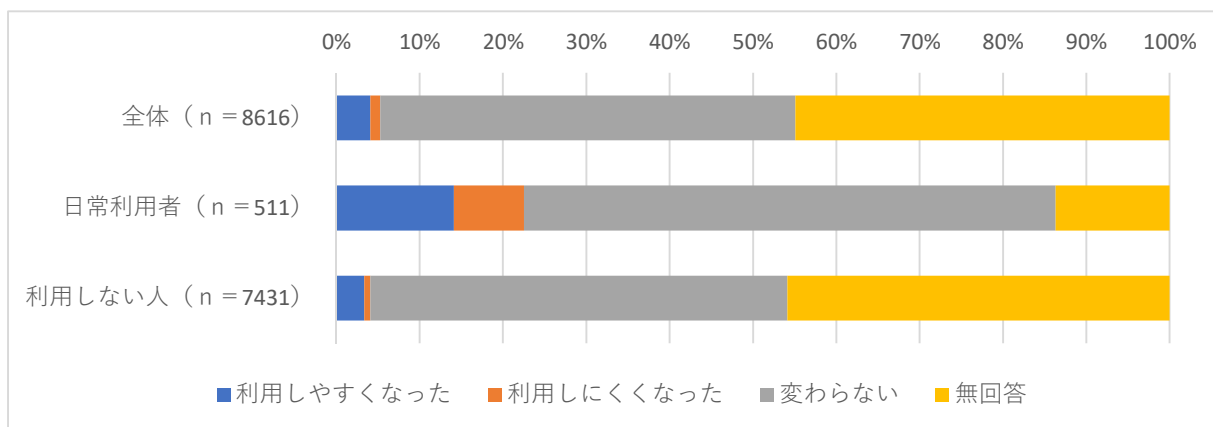
- 前問で「知っている」と回答した 926 人のうち、10.4%(97 人)が専用回数券を利用している。
- 「知っている」人の多くは、年齢や免許保有状況による対象条件から外れている。

ふれあいバスは、令和4年度より交通渋滞を考慮したダイヤ改正を実施しました。

問 23 ダイヤ改正前後の利便性の変化を教えてください。

回答者数:8,616





- 回答者全体では「利用しやすくなった」が 4.1%(350 人)であり、「利用しにくくなった」の 1.2%(105 人)を上回っている。
- 日常的利用者では「利用しやすくなった」の割合が約 14%と高くなっているものの、「利用しにくくなった」も 8.4%と高くなっている。